

地域とともに

第3号

<2011年7月19日発行>



静岡大学 地域連携協働センター
Center for Regional Collaboration



目 次

■地域社会文化研究ネットワークセンターの活動について	2
地域社会文化研究ネットワークセンター長 野方 宏	
■さまざまな地域連携のかたち	3
□ようこそ、「サイエンスカフェ in 静岡」へ！	
サイエンスカフェ in静岡店長・理学部教授 坂本 健吉	
□佐鳴湖がきれいになったって、知っていますか？	
工学部准教授 戸田 三津夫	
■イベント・活動等 報告（4月～6月）	8
■地域向けイベントのお知らせ（7月～9月）	10

地域社会文化研究ネットワークセンターの活動について

地域社会文化研究ネットワークセンター長 野方 宏



静岡大学地域社会文化研究ネットワークセンター（以下、ネットワークセンター）は、人文・社会科学系スタッフの多様な地域連携を通じて社会貢献を推進するため、人文学部に設置された組織です。

大学と地域の連携に関して私たちが目指しているのは、どちらかの一方向的な「貢献」ではなく、「連携」による新しい地域社会・文化の創造と、新しい大学の創造です。こうした基本的目標を達成すべくネットワークセンターでは、以下のような地域に関わる活動の支援やネットワークセンター独自の活動を展開しています。

まず、「地域の課題をともに考える」という面では、地域の住民・団体・企業・行政機関などの相談・依頼窓口として、ビジネスに関する助言や人材の派遣を行っています。平成22年度には、県東部の美術館から今後の伊豆観光や美術館入場客の動向などについての相談依頼があり、伊豆観光を研究テーマにしている教員チームが対応しました。また、県内旅行会社からは中国歴史の旅という海外旅行企画に関して当該分野の教員の協力・助言を求められました。法務局人権擁護課からの研究会講師の派遣依頼にも臨床心理学の関連教員を紹介しました。

「地域の歴史・文化をともに学ぶ」という面では、講演会・見学会・講座の開催・支援を行っています。平成22年度には、地元のボランティアグループと連携して、天理大学教授 岡田昌彦氏を講師に、「忘れられた仏教天文学 小島龍津寺所蔵須弥山儀の謎」の講演を静岡市清水区の龍津寺で行いました。また、静岡ハリストス正教会、鞠水書屋と共催で小田原ハリス

トス正教会司祭 田中仁一氏、絵本作家 吉田稔美氏、東海大学准教授 金沢百枝氏を講師に、「静岡ハリストス正教会のイコンと山下りん」の講演および静岡ハリストス正教会の聖堂見学会を行いました。

「地域とともに学ぶ」という面では、ネットワークセンターの3冊の定期刊行物を通じた情報発信を積極的に行っています。学術誌『地域研究』（年1回刊行）には、静岡県に関係する地域・文化・歴史・経済に関する専門的研究を掲載しています。平成22年度には、「静岡SDモデルの開発」、「温泉観光都市・伊豆の再生」、「伊豆地域観光業の振興と地域の活性化」、「大学アーカイブズ構築に向けた初歩的作業（第2期）」、「静岡県西部・製造業の地域間取引構造」といった地域に密接に関係したテーマの研究結果を報告しました。ネットワークセンターの機関誌に位置づけられる『みんなの大学』（カラー版）は人文学部スタッフの地域調査・地域連携活動を写真を交えて紹介したものです。平成22年度には、言語文化学科で開講された「静岡の文化」の受講生の「実践体験」と、経済学科でのゼミ活動の一環として行われた地域調査に基づいた共同研究を紹介しました。『みんなの大学』（白黒版）では人文学部4学科の学生の行うフィールドワークを紹介しています。平成22年度には、社会学科の社会調査実習の社会的意義、文化人類学のフィールドワーク実習、考古学のフィールドワーク教育、言語文化学科の「静岡の文化」実践報告、法学科のインターカレッジの成果報告、経済学科の経済学における実験教育の開発を紹介しました。

以上紹介してきましたように、ネットワークセンターは地域と大学に関わる広範な問題や課題について、地域住民・企業・行政と大学（学生・教員・職員）が連携して取り組んでおります。地域の皆さんが抱えるどんなことでも気軽にご相談ください。

TEL・FAX：054-238-4900（直通、担当：立川）
HP：<http://www.hss.shizuoka.ac.jp/rnc/>
E-mail：jrnc@ipc.shizuoka.ac.jp

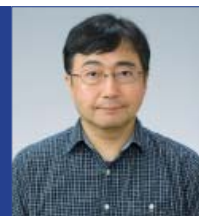


小島龍津寺での講演会の様子

〈さまざまな地域連携のかたち〉

ようこそ、「サイエンスカフェ in 静岡」へ！

サイエンスカフェ in 静岡店長・理学部教授 坂本 健吉



ときには実験も交えて（藤原 健智 理学部教授）

〈サイエンスカフェって何でしょう？〉

理学部では、毎月1回木曜日の午後6時から静鉄新静岡駅近くのペガサートビルを会場に「サイエンスカフェ in 静岡」を開催しています。理学部を中心とする理系学部の教員が自分の研究を紹介し、聴衆の質問に答えるという企画です。2006年12月に始まって以来4年半、今年3月には50回目を迎え、この7月からは第12シーズンが始まります。

カフェのメニューは数学や物理学、化学から、生物学、地球科学、薬学や農学、工学、天文学まで毎回変わります。たとえば、第9シーズン以降のメニューはこんな感じ・・・

【第9シーズン】

- 第39話 貝殻の形の不思議～多様性と一様性の接点～
生形 貴男（理学部地球科学科・2010年4月）
- 第40話 ブラックホール活動天体への招待
福江 純（大阪教育大学天文学研究室・5月）
- 第41話 たった一つの光の粒子を創る
阪東 一毅（理学部物理学科・6月）
- 第42話 土壌微生物のはたらき～窒素が畑で七変化！～
鮫島 玲子（農学部共生バイオサイエンス学科・7月）
- 第43話 電子の磁石でタンパク質の反応をみる
小堀 康博（理学部化学科・8月）

【第10シーズン】

- 第44話 死の海に生きる微生物～高度好塩菌の話～
藤原 健智（理学部生物学科・9月）
- 第45話 南極から世界を見よう
M.サティッシュ・クマール（理学部地球科学科・10月）
- 第46話 アルキメデスの失われた写本を読む

齋藤 憲（大阪府立大学人間社会学部・11月）

- 第47話 物質に対するサイズの効果～クラスターの科学～
三井 正明（理学部化学科・12月）
- 第48話 未来の画像技術～ナノビジョンサイエンス～
三村 秀典（電子工学研究所・2011年1月）

【第11シーズン】

- 第49話 富士山で見られる南極と北極の世界
増澤 武弘（理学部生物科学科・2月）
- 第50話 次元って何？数学者はどのように次元を決めるか
小山 晃（理学部数学科・3月）
- 第51話 節足動物：繁栄への助走路を走り抜けた動物たち
鈴木 雄太郎（理学部地球科学科・4月）
- 第52話 SPring- 8とそこで行われる利用実験
岡 俊彦（理学部物理学科・5月）
- 第53話 金属触媒で化学物質を創る
塚田 直史（理学部化学科・6月）

【第12シーズン】

- 第54話 人工地震波で地下を見る
生田 領野（理学部地球科学科・7月）
- 第55話 有機合成の力と技で食品有効成分の謎に挑む
菅 敏幸（静岡県立大学薬学部・8月）
- 第56話 もしも微生物がいなくなったら？（昆虫編）
田上 陽介（農学部共生バイオサイエンス学科・9月）
- 第57話 光エネルギーって何？光合成から次世代型太陽電池まで
昆野 昭則（創造科学技術大学院・10月）
- 第58話 電波で分子を見る～分子分光学への招待～
岡林 利明（理学部化学科・11月）



第12シーズンのポスター（2011年7月～11月）



150名分の席が埋まってしまうことも！
【第40話】「ブラックホール活動天体への招待」は大盛況

如何でしょうか？一口に「サイエンス」といっても、本当にいろいろな分野がありますね。

気になるメニューが出ていたら、どうぞお気軽にお立ち寄り下さい。入場無料で事前の登録も必要ありません。もちろん、「カフェ」なので、コーヒーやお茶、お菓子もついています。

先端的な科学の話題ですから、ときには難しいこともあります。しかし、あえて易しくしすぎないようにしています。もちろんイントロとして基礎的なことの解説はしますが、話の後半では最新の研究成果がどんどん出てきます。それは、「難しいけど面白かった」と言ってもらえることを目標に、最先端研究のエッセンスを市民に発信しよう！がこのカフェを初めて以来ずっと守り続けているコンセプトだからです。このサイエンスカフェを「入門講座」とか、「カルチャースクール」にはしたくありません。

しかし、こんなおもねらない姿勢が逆に好奇心旺盛な静岡の市民には受けたようです。今では中学生からシニアの方まで、文字通り老若男女がサイエンスを楽しむこと、「科楽」のために集まってきます。嬉しいことに、「難しいから面白いし、興味も湧くんだ」と言って通ってくださる常連さん(リピーター)が大勢いらっしゃいます。参加者は毎回100名前後、国内でも有数規模のサイエンスカフェだとの評価をいただいています。



聴衆は老若男女 必要なのは、あなたの興味と好奇心

<緊急企画・特別版カフェの開催>

東日本大震災から1ヶ月後の2011年4月14日、緊急企画特別版として「地震と放射能：いま知っておくべきこと」を2時間半の拡大版として開催しました。

市民の皆さんの多くが知りたいと思っている情報がすぐに出せないようでは、日頃から市民への情報発信を謳っているサイエンスカフェの存在意義はない、そんな思いがありました。

3月末から準備を始め、4月5日にメーリングリストとブログ、ツイッターで開催を告知しました。

プログラムは2本立てで、第1話が「今回の地震について」(生田 領野、理学部地球科学科)、第2話が「放射能の基礎知識」(奥野 健二・大矢 恭久、理学部附属放射科学研究施設)です。

会場が狭いので、ほとんど広報活動はしなかったのですが、それでも200名もの方々に参加していただきました。話題が話題だけに、いつも以上に活発な質疑応答が続き、必用な時期に必用な情報を提供する意義の大きさを実感しました。

<広がるサイエンスカフェ活動>

カフェには浜松や焼津、藤枝、富士宮、富士など、静岡市以外から参加されている方々がいらっしゃいます。そこで、少しずつではありますがカフェを広げる活動も行っています。以前から続けている高校への出前カフェに加えて、昨年12月には富士市内の喫茶店で「しずだい飛ぶ教室・サイエンスカフェ in富士」を開催しました(主催：生涯学習教育研究センター)。さらに、浜松キャンパスでも今年度から「サイエンスカフェ in浜松」が定期開催されることになりました。

このような活動を通して多くの市民の皆さんに最新の科学知識だけでなく、研究の楽しさをお伝えできたらと思います。

4月14日(木)
18:00~20:30
葵区御幸町
ベガサートビル6階
B・nest (ビネスト)

入場無料・申込不要
(定員 150名)
満席の際はご容赦下さい

サイエンスカフェ in 静岡 特別版
静岡大学理学部緊急企画

地震と放射能
いま知っておくべきこと

第1話 今回の地震について
生田 領野
(理学部地球科学科)

第2話 放射能の基礎知識
奥野 健二・大矢 恭久
(理学部附属放射科学研究施設)

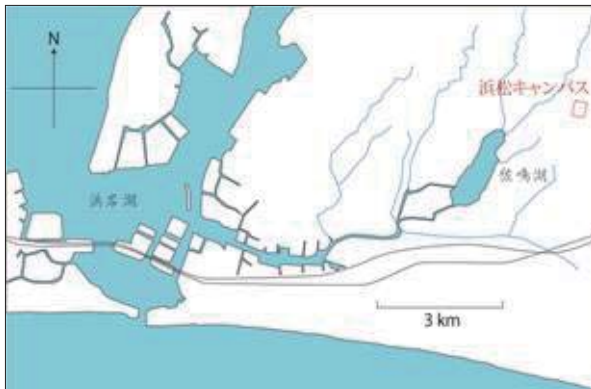
連絡先 静岡大学理学部化学科 坂本健吉
電話: 054-238-4751
メール: sksakam@ipc.shizuoka.ac.jp

「地震と放射能」のポスター(ブログで使用)

〈さまざまな地域連携のかたち〉

佐鳴湖がきれいになったって知っていますか？

工学部准教授 戸田 三津夫



佐鳴湖の位置



佐鳴湖の魚たち（2007年3月 アユも多数）

〈佐鳴湖の紹介〉

みなさんは、浜松市の「佐鳴湖（さなるこ）」を知っていますか？この湖は、2001年度から2006年度まで環境省が発表する公共水域（湖沼部門）の、有機汚濁の程度を示すCOD-Mn値で、ワースト（全国で最悪ということ）を記録していました。そのため、ずいぶん改善されたにも関わらず、日頃訪れない浜松市民にはいまだに悪いイメージがあります。佐鳴湖は、浜松キャンパスの南西約2キロのところにあり、浜松キャンパスでは新入生歓迎駅伝大会やボート競技等で親しまれています。また、キャンパス内には佐鳴湖にちなんで名付けられた「佐鳴会館」という施設もあります。

佐鳴湖は実際に行ってみると確かに水は澄んでいますが、悪臭もなく結構風光明媚な良いところですよ。周辺の住民には大変親しまれて、朝早くから多くの人が散歩などをしています。ところが、残念なことに浜松市民全体の関心は高いとは言えず、県内外から多くの方が訪れるというわけでもありません。佐鳴湖と浜名湖は水路で繋がっていて、海面との高低差もほとんどないために潮汐の影響を強く受けます。大平台という西岸住宅地の開発が行われてからは、浜名湖への水路が追加開削されて近年さらに塩水化が進み、塩分が苦手なアオコ、オオクチバス、ブルーギルはほとんど見ることがなくなりました。よく、事情を知らないバスロッド持参の釣り人を見かけますが、ルアーで簡単に釣れる魚はほとんどいません。仮にオオクチバスを密放流（違法行為で300万円以下の罰金！）したとし

ても繁殖も定着もできません。生息魚類としては、コイ科淡水魚、メダカ、汽水性海水魚などが多く、50種以上が確認されています。定着外来魚は、カムルチーとタイリクバラタナゴくらいですが、その数は多くありません。上の写真は春の時期の魚類生息調査のときに獲れた魚です。そのほとんどがアユでした。汚いと言われる佐鳴湖にアユ？と驚かれるかもしれませんが、毎年たくさん上ってきます。そのほか写真にはスズキとコノシロ（すしネタのコハダになる魚）などが見えます。これらは結構おいしいですよ！

湖の基本データは、[長軸方向2.2km、短軸方向0.6km、面積1.2km²、水深2m、底質：泥、湛水量240万トン]で、銅鑄型とも言われますが、左上の地図を見ればわかるようにむしろゾウリムシに似ています。成り立ちは、溺れ谷、あるいは海跡湖と言われるもので、海岸からの砂で谷の入口がせき止められてできたと考えられています。

佐鳴湖は、歴史的には海岸線や浜名湖の変化に強く影響を受け、淡水、汽水、海水と環境を変えてきたと考えられます。現在の上流からの淡水流入量は、一日あたり5万トン程度（毎秒に直すと0.58トンほど）に過ぎず、河川からの流入量よりも潮汐による水の動き（少なくとも40～100万トン）がはるかに勝ります。しかし、浜名湖までの距離が5km以上あり、その水路の容積が大きいため、ほとんどの水は往復するのみで入れ替わりはなかなか進みません。そのため浜名湖と同じ塩分濃度にはならず、アサリやマダコが採れたりしません。水の交換が遅く、汚濁の原因

物質を多く呼び込み、湖内で植物プランクトンがそれを利用して繁殖しますので、構造上の必然として有機汚濁が進むことになります。塩分濃度は、降雨の際、急激に1%程度から一挙に0%近くまで低下するときもあります。一方、浜名湖からの海水流入による塩分濃度上昇は緩やかです。平均塩分濃度は0.5%くらいですが、急激に塩分濃度が変わるため、生物にとって過酷な環境です。水源は三方原台地の端から出る湧水で、天竜川など、山地からの河川は佐鳴湖に直接流入していません。このことは、後で紹介する佐鳴湖プロジェクトで行った安定同位体比分析により佐鳴湖流域の水が天竜川の水系の水と明瞭に区別できることからほぼ立証できています。湖は、周辺住民の運動や散歩、釣りやピクニックのほか、漕艇に使われていて、漁業協同組合（入野漁協）もあり、もっぱらウナギを竹筒（つぼ）漁で漁獲しています。

佐鳴湖および下流域では、潮汐による水の往復があるため、水質の観測も物質の出入りを考える物質収支解析もひと筋縄ではいきません。海に繋がっていますので一日に干潮と満潮が二回ずつありますが、水の移動量も不規則なため水質調査も一般の河川のように行えず、我々のプロジェクトでも24時間や深夜早朝に及ぶサンプリングを何回も行いました。実際に各項目はめまぐるしく変化します。一方、佐鳴湖の汚濁の原因物質は比較的単純です。降雨以外の水源が乏しい上流の流入河川沿いの土地が、浜松市の市域拡大とともにどんどん宅地化して、生活排水の負荷が大きくなり、湧水が減少しました。生活排水対策としての下水道建設は都市化に追いつかず、そのため窒素やリンが大量に流入し汚濁が急激に進みました。現在、上流域の下水道整備率（水洗化率）は90%を超えてきており、古い時代に開発された住宅地では世代交代による建て替え、学生マンションの建設ラッシュにより、下水道接続率向上と負荷量の減少等が進みました。浜松キャンパスの学生はかつて2年生まで静岡キャンパスに通っていましたが、今では1年生から浜松キャンパスに通学してきます。したがって、切り替えの時期に千人分を超える学生下宿が新たにできたと思われます。未確認ですが、このことが佐鳴湖の浄化に貢献した可能性も大いにあります。下水道整備と接続により、近年、徐々にリン負荷が減少し、COD-Mn値も、2006年度まで11ppm前後で推移していたものが、9.3ppm（2007年度、ワースト3位）、9.0ppm（2008年度、同4位）、7.6ppm（2009年度、同10位）と着実に改善しています。しかし、一方で、



佐鳴湖の風景

主に農業系由来と推定される面源系負荷については硝酸態窒素濃度[NO₃-N]が湧水で常に5ppm以上観測される状態で、施肥の改善にもかかわらず減少傾向は見えてきていません。一方、佐鳴湖では夏季にはラン藻、冬季にはケイ藻と、植物プランクトンが入れ替わって優占し、植物プランクトンの濃度を示す指標であるクロロフィルa濃度がほぼ継続して100μg L⁻¹以上で観測されます。概して、透明度は50cm前後、透視度は10cm強、栄養塩濃度については、夏季には窒素が欠乏しリンが余る、冬季にはリンが欠乏して窒素が余る傾向があります。簡単ですが、佐鳴湖はこのような湖です。

<静岡大学アメニティ佐鳴湖プロジェクト>

静岡大学では、このような佐鳴湖の状況を見て、工学部で環境改善のためのプロジェクト：「静岡大学アメニティ佐鳴湖プロジェクト」を2003年に設立して、「汚濁メカニズムの解明」と「汚濁解消」を目標に活動を開始しました。工学部には生物学やフィールド系環境学、土木系の学科がないにもかかわらず、少々無謀なチャレンジでしたが、主に、流体力学による地下水流動、化学による物質循環や収支解析、生態系解析、微生物研究、システム工学による住民活動研究などによるアプローチを続け、現在、活動は8年目を迎えています。これまでのプロジェクトの活動としては、独自の水質調査の実施、学外研究者を招いての研究会の開催、プロジェクト成果公開報告会開催、行政や市民団体との連携協働、教育への展開（講義、卒業研究、修士研究、学会発表、研究会での発表）、研究への展開（学会発表、論文投稿）などを行ってきました。最近では、ヤマトシジミ再生プロジェクトに参加し、食性解析により浄化への寄与を明らかにする試みも行っています。

佐鳴湖の水質改善には、下水道の整備、産業系負荷の削減が大きく寄与していると考えられます。それら



「水質調査（新しい湖の評価基準）」への協力
（浜松土木事務所主催 2007年11月16日）



プロジェクト水質調査風景



プロジェクト採水風景

は理想的根源的な対策ではないものの、ひたすら地道に汚濁負荷を削減して今日の改善を実現した点は他の地域に例を見ない成果であり、誇れるものであると地元（住民、行政）では自負しています。また、汚濁負荷対策が一段落した後は、湧水の増加を図る雨水浸透促進や、流域生態系の回復などのソフト面での対策効果が期待できる段階になると思われます。

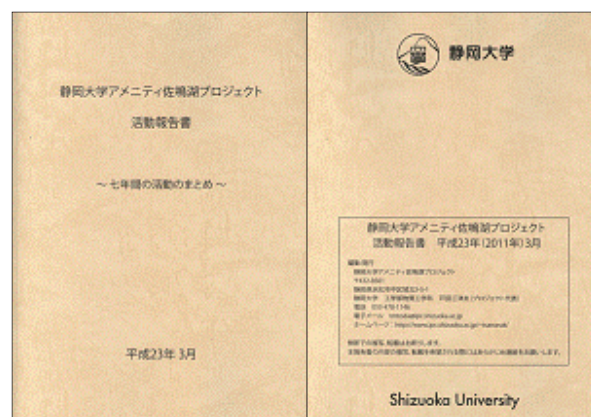
静岡大学アメニティ佐鳴湖プロジェクトでは、研究活動、学生の卒業研究、修士研究のほかにも、地域連携活動として、行政や市民団体が行う各種行事やボランティア活動に積極的に参加しています。それには、たとえば佐鳴湖ネットワーク会議（現在は解散）での活動があります。定期的に行われる会議への出席、

「よみがえれ佐鳴湖！市民大会」などへの参加、市民参加型の流域一斉水質調査やその後行われるようになった「佐鳴湖水質調査（新しい湖の評価基準）」への協力、ネットワーク会議認定の佐鳴湖博士としての小中学校行事への協力などです。その他、大学が開催する公開講座講師の担当や、プロジェクトの活動報告を目的とした「公開シンポジウム」開催を通じて、市民への情報提供を精力的に行ってきました。講義への展開では、15回ずっと佐鳴湖の話で進む学際科目「佐鳴湖から考える」を継続開講しています。行政や「清流ルネッサンスII佐鳴湖地域協議会」などの協議会にも委員として参加し、「浜松市 川や湖を守る条例」<http://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/lifeindex/life/env/riverlake/index.htm> 制定などをお手伝いすることができました。

佐鳴湖プロジェクトは、2003年度に工学部長裁量経費による支援で活動を開始し、その後、学内外からの支援と協力をいただきながら今まで活動を続けてきました。そして、昨年度の「地域連携協働センター公開シンポジウム」では活動の報告の機会をいただきました。また、サイエンスカフェ in 浜松【第3話】（2011年8月31日（水）18:00～20:30、静岡大学高柳記念未来技術創造館）でも報告の機会をいただいています。この場を借りて御礼申し上げます。

その後、より詳しく活動を知っていただくために7年間の活動報告書（2011年3月、360ページ）を作成しました。無償でお分けしていますので、ご希望の方は以下まで連絡をお願いします。

（連絡先：tmtoda@ipc.shizuoka.ac.jp）



静岡大学アメニティ佐鳴湖プロジェクト 活動報告書

イベント・活動等 報告（4月～6月）

■第36回ふじのくに防災学講座

日時：4月16日（土）10:30～12:00

場所：静岡県地震防災センターないふるホール

「平成23年度東北地方太平洋沖地震現地調査緊急報告会」と題し、本学防災総合センターの小山真人・牛山素行の両副センター長が東日本大震災の巨大地震のメカニズムの説明や東北被災地の調査について緊急報告を行いました。 [防災総合センター]



■公開講座 安心登山のための読図とナビゲーションスキル（中級編）

日時：5月8日（日）9:30～16:00

場所：静岡大学静岡キャンパス

山歩きを愛好する方々を対象に、より安全で確実なナビゲーションを行うための実践的なスキルを学びました。 [生涯学習教育研究センター]

■東海4県1市連携シンポジウム

日時：5月13日（金）15:00～17:30

場所：静岡県地震防災センターないふるホール

東海地震などを見据え、静岡・愛知・岐阜・三重の4県と名古屋市は東海地域の大学と合同でシンポジウムを開催し、人材育成や被害想定データの共有化を検討することを申し合わせました。本学防災総合センターからは、中川和之客員教授及び牛山素行副センター長がそれぞれコーディネーター、パネリストとして参加しました。 [防災総合センター]

■静岡大学・読売新聞連続市民講座 地域から広がる可能性

【第1回】多文化の集う地域から対話を

日時：5月14日（土）14:00～16:00

【第2回】変容する家族と地域

日時：6月4日（土）14:00～16:00

場所：静岡市産学交流センター（第1回・2回共通）

2009年度から始まった本連続市民講座も、3年目を迎えました。今回は、人間関係の希薄化や核家族化などが進む中、ますます重要性を増す地域について考えていきます。 [生涯学習教育研究センター]

2011年
静岡大学・読売新聞連続市民講座

第0回 5/14日 多文化の集う地域から対話を
講師/静岡大学教育学部社会文化学専攻 平野啓祐 氏 (社会文化学)

第1回 6/4日 変容する家族と地域
講師/静岡大学教育学部社会文化学専攻 鈴木孝子 氏 (社会文化学)

第2回 7/2日 地域福祉と男女共同参画社会
講師/静岡大学教育学部社会文化学専攻 藤田 麗 氏 (社会文化学)

第3回 8/6日 ICT(情報通信技術)の進展と地域社会 ～絆の再生と創造～
講師/静岡大学工学部情報科学科 伊藤 誠 氏 (工学部)

第4回 9/3日 若者の居場所
講師/静岡大学工学部情報科学科 藤野達史 氏 (工学部)

第5回 10/1日 静岡の通称山村・限界集落における地域づくり実践報告
～緑のまちづくり・若い世代・福祉・お祭り・お祭り～
講師/静岡大学教育学部社会文化学専攻 小橋 啓明 氏 (社会文化学)

第6回 11/5日 地産地消と我が国農業
講師/静岡大学教育学部社会文化学専攻 藤田 麗 氏 (社会文化学)

第7回 12/3日 地域から考える防災とジェンダー
講師/静岡大学教育学部社会文化学専攻 藤田 麗 氏 (社会文化学)

開催時間/14:00～16:00 (入場無料) 各回120人 申込は本講座事務局までお願いします。

静岡大学 読売新聞社

■公開講座 終末期医療の「いま」と「これから」～ヒューマンケアの視点から～

【第1回】日時：5月24日（火）18:30～20:30

【第2回】日時：5月31日（火）18:30～20:30

【第3回】日時：6月7日（火）18:30～20:30

【第4回】日時：6月14日（火）18:30～20:30

【第5回】日時：6月21日（火）18:30～20:30

【第6回】日時：6月28日（火）18:30～20:30

場所：アイセル21（第1回～6回共通）

ここ数年、終末期医療において、どこまで治療をするべきなのかが問題になってきました。また、国家財政が危機的状況となる中で、医療・介護を含めた社会保障の制度設計も今後再検討される予定です。本講座では、こうした現状を踏まえながら、ヒューマンケアという原点に立ち返り、望ましい終末期ケアのあり方を考えました。 [生涯学習教育研究センター]

■公開講座 英語で自分の「体験談」を書きましょう！

【第1回】日時：5月28日（土）18:30～20:30

【第2回】日時：6月18日（土）18:30～20:30

場所：静岡市産学交流センター（第1回・2回共通）

自分の英語力アップを目的に、それぞれの参加者が

自分の作品を書き、それをたくさんの方とSHAREし、
いろいろな作品を楽しみました。

「生涯学習教育研究センター」

■サイエンスカフェ in 浜松【第1話】

日時：6月15日（水）

場所：静岡大学高柳記念未来技術創造館

静岡で好評のサイエンスカフェを浜松でもスタートしました。人が各地に分散している浜松市で、交通の便が良く駐車場の確保ができることから、落ち着いた雰囲気のカフェが自慢の工学部高柳記念未来技術創造館での開催です。午後6時から40分の講演を2コマと、放課後討論会と名付けたディスカッションがメニューです。初回は電子工学研究所の青木准教授による「やさしい放射線の話」を、ラウンジバーカウンターで振る舞われるコーヒーと共に楽しみました。非常に短い告知期間であったにもかかわらず学内外から20名ほど集まっていただきました。なお、広報、放課後討論会、コーヒー提供などは工学部／情報学部の学生が中心となって進めています。今後、少しずつ育てていきたいと願っています。[高柳記念未来技術創造館]



■公開セミナー 学ぶって楽しい！～大学で学ぼう～

日時：6月19日（日）9:15～12:15

場所：静岡大学教育学部G棟104教室

知的障害のある人が、学校卒業後も生涯学習の機会を持ち、より豊かな人生を送ることができるよう、本セミナーを2005年から継続実施しています。第1回を今回開催し、第2回を10月に開催する予定です。

[生涯学習教育研究センター]

■市民開放授業

本年も4月から、静岡大学の学生が受講している
正規の科目を一般市民の方に開放する市民開放授業
(2011年度前期)が始まりました。7年目となった
今期は、150名の市民がのべ239科目を受講中です。

[生涯学習教育研究センター]

[illegible]

■平成23年度「地域連携応援プロジェクト」を募集し、7件を採択しました

地域連携協働センターでは、学内の学生・教職員を対象に「地域連携応援プロジェクト」を募集し、17件の応募がありました。その中の4件は防災関係の内容につき防災総合センターの支援を仰ぐこととし、残り13件の中から今回の募集経費の枠内で7件のプロジェクトを採択しました。これらの取り組みが進むことにより、学生・教職員の主体的な地域連携活動が促進され、地域とより密着に連携した静岡大学になることを期待しています。[地域連携協働センター]

地域向けイベントのお知らせ（7月～9月）

■静岡大学・読売新聞連続市民講座 地域から広がる可能性

【第3回】地域福祉と男女共同参画社会

日時：7月2日（土）14:00～16:00

【第4回】ICT（情報通信技術）の進展と地域社会～絆の再生と創造～

日時：8月6日（土）14:00～16:00

【第5回】若者の居場所

日時：9月3日（土）14:00～16:00

場所：静岡市産学交流センター（第3回～5回共通）

■公開講座 英語で自分の「体験談」を書きましょう！

【第3回】書いた話に対するアドバイスをもらおう！

日時：7月9日（土）18:30～20:30

【第4回】発表会をやろう！

日時：7月30日（土）18:30～21:00

場所：静岡市産学交流センター（第3回・4回共通）

■サイエンスカフェ in 静岡

【第54話】人工地震波で地下を見る

日時：7月21日（木）18:00～19:30

【第55話】有機合成の力と技で食品有効成分の謎に挑む

日時：8月25日（木）18:00～19:30

【第56話】もしも微生物がいなくなったら？（昆虫編）

日時：9月15日（木）18:00～19:30

場所：静岡市産学交流センター（第54話～56話共通）

■サイエンスカフェ in 浜松

【第2話】身近な省エネから省エネネットワークへ

日時：7月27日（水）18:00～

【第3話】身近な環境・真の環境を考える

日時：8月31日（水）18:00～

【第4話】測って知ろう、人間の体

日時：9月21日（水）18:00～

場所：静岡大学高柳記念未来技術創造館（第2話～4話共通）
<http://www.nvrc.rie.shizuoka.ac.jp/sci-cafe/>

■公開講座 体験！大学の化学実験

日時：8月6日（土）・7日（日）10:00～16:00

場所：静岡大学静岡キャンパス

■公開講座 静大キャンパス探訪～生物調査隊とキャンパスの自然を観察しよう～

【第1回】日時：8月6日（土）10:00～12:00

【第2回】日時：8月20日（土）19:00～21:00

【第3回】日時：8月27日（土）10:00～12:00

場所：静岡大学静岡キャンパス（第1回～3回共通）

■公開講座 体育授業としての卓球指導法研修

【第1回】日時：8月6日（土）13:30～16:30

【第2回】日時：8月7日（日）9:00～12:00

場所：静岡大学静岡キャンパス（第1回・2回共通）

■公開講座 小学校外国語活動スキルアップ講座Ⅳ

日時：8月19日（金）10:00～16:00

場所：静岡大学静岡キャンパス

■公開講座 <いのち>と環境を考える

【第1回】海のしくみと駿河湾深層水

日時：9月10日（土）14:00～16:00

【第2回】循環共生社会の原理～自然のしくみと社会のしくみを繋げる知とは～

日時：9月17日（土）14:00～16:00

【第3回】遺伝子技術のゆくえと<いのち>の現在

日時：9月24日（土）14:00～16:00

場所：沼津市民文化センター（第1回～第3回共通）

■公開講座 食品分析のための高速液体クロマトグラフィ基礎講座

日時：9月14日（水）～16日（金）13:00～18:00

場所：静岡大学静岡キャンパス

編集後記

今回、地域連携協働センターでは「地域連携応援プロジェクト」という事業を公募しました。既に地域や学外組織等と連携し地域のために活動している又はこれから活動しようとする本学の学生・教職員グループに対し、広報・経費両面から支援しようとするものです。17件という多数の応募があり、活動の

掘り起こしということでは、既にこの時点で成果があったと考えています。応募内容は素晴らしいものが多く、全て採択したいとの審査員のコメントもありましたが、経費の面で叶いませんでした。今後も学内の地域連携の芽を掘り起こし育てていきたいと考えています。 [研究協力課 森本 真弘]

発行日 2011年7月19日
発行 静岡大学地域連携協働センター
編集 森本 真弘（研究協力課研究支援係）
連絡先 〒422-8529 静岡市駿河区大谷836 静岡大学学術情報部研究協力課研究支援係
☎054-238-4902 E-mail: ochiiki@ipc.shizuoka.ac.jp
ウェブサイト <http://www.crc.shizuoka.ac.jp/>